

対談録

岩手・宮城内陸地震から2年3ヶ月！



国道398号開通を迎えて



宮城県土木部道路課長

遠藤 信哉



皆瀬観光協会会長

小安峽温泉 多郎兵衛旅館社長

伊藤 多郎兵衛

岩手・宮城内陸地震から2年3ヶ月：

～国道398号開通を迎えて

皆瀬観光協会会長 小安峽温泉多郎兵衛旅館社長に聞く



多郎兵衛旅館社長 伊藤多郎兵衛氏

課 長：平成20年6月14日に

岩手・宮城内陸地震が発生し、国道398号が通行止めになっておりましたが、先日、平成22年9月18日に2年3ヶ月ぶりに開通致しました。どのようないでおられたのか、率直な感想をお聞かせ頂けないでしょうか。

多郎兵衛：ここに住んでいる人たちにとって、国道398号は非常に大切な道路なんです。そして、突然地震があり国道398号が通行止めになり、我々観光業者ばかりではなくて、湯沢市までの398号沿線の様々な方にとって非常に大切な道路だということを改めて自覚しました。

例えば、ここからすぐ近くの稲庭うどんのお店ですが、岩手・宮城内陸地震の前に、本社を新築し非常に沢山のお客さんが入られておりました。地震前は、夕方5時近くまで食事されて帰られるお客さんも沢山おったんです。地震が発生し国道398号が通行止めになってから

は、そんな遅くまで食べていると、398号を利用するよりも遠回りしないといけないので、早々と切り上げるようになりまして。このことから、こんなに大切な道路だったんだと改めて自覚されたと思います。また、私達観光業者にとっては、団体のお客さんが398号を通り抜けが出来ないという事で、非常に大きなダメージでしたね。

課 長：そうですね。やはり秋田県と宮城県を結ぶ主要な幹線道路ですから、私も宮城県もこの道路に対する重要性を認識していました。災害が来てわかったと言ったら語弊があるかもしれませんが、この道路が寸断されることによって、如何に重要な道路であるか実感できたと思います。その中で、我々も精一杯がんばって災害復旧を進めて参りましたが、やはり2年3ヶ月という期間は決して短くはありません。随分長くお待たせ致しました。その2年3ヶ月の期間、宿泊客や観光客の入り込みは、被災前と比べてどのような状況だったんでしょうか。



宮城県土木部道路課長 遠藤信哉氏

心待ちにしていた398号の開通

多郎兵衛：やっぱり、ひどい時は半分くらいまで落ちていましたね。それで、一年前に来て頂いた方みんなに、自分の所はそれほど痛んでないので大丈夫、泊まれますという内容の絵はがきを出したんですね。したら、今度、東北行ったら必ず行くからとお電話を頂いたんですよ。この地震のおかげでそのようなPRの仕方というか安全だというのをお客様にご案内すること

も大切だなという事を、非常に強く感じました。

課 長：代償は大きかったかもしれないですが、その地震の被害を受けた事によって、お客様に対するPRとか、誘客活動など、どう展開するかという一つの切っ掛けになったんですね。

多郎兵衛：自分が今商売をやっている、何もなければ、もう一回振り返ってみるといった事をし

ないで、ダラダラとやっちゃっていたと思うんですね。これで

良いつて気持ちです。そういった気持ちだと、やっぱり、なかなかお客様の求めるところに我々が気付けないんですね。今回みたいに大きな災害があつて、それを今度はどうやって前のように戻していかないといけないかってことで、危機感を感じながらやってゆくという良いチャンスなんです。以前は、湯沢市の方からだけお

客さんが入ってきて、398号が開通していても湯沢市の方から来る方が渋滞していたんですね。ところが、10月11日は、宮城県から来るお客さんは、地震の時の崩落した山の状態とか、道路の状態とか見たいといったことで、ここの前はずっと渋滞でした。

ちようど連休の最終日で天気が良かったので、もう、本当に凄かったです。

課 長：そういう意味では、宮城県側から小安峡へのアクセスを期待していたというか、待っていたという状況であるわけですね。災害の現場を見てみたいというのもあったんでしょうけど。9月18日の開通から1ヵ月ちよつとしかたっていないんですが、社長さんの実感として、開通後のお客さまの動きは、如何でしたか。

多郎兵衛：大憤湯のうえの「あぐり館」という物産館ですが、そこでは道路が開通する前と比べると1.5倍以上のお客さんが入っているということです。昨日は大型バスが7台止まっておりまして。道路が開通してからは、大型バスが入って

きて、もの凄いですよ。湯沢の方から来て、帰りに宮城県側に抜けて行ったりするんですよ。栗駒の紅葉を見て、こちらを回って宮城県に出て行くということです。だから、398号が開通すると全然違いますよ。

課 長：今日は398号を通過して来たんですが、秋田県側も宮城県側も非常に美しい紅葉でちようど見頃でした。様々な方が車を止めて写真を撮られています。

多郎兵衛：18日に開通してから、湯浜温泉の車が崩落して捜索を行った所がありますね。あそこは、写真を撮る人で車が渋滞して。開通したその日からです。

課 長：宮城県のテレビのニュースでも、ちようどその場所が放映されました。今日も何台かいました。私達がいる間にも、車が何台か止まったりして、秋



田県側に向かう方がいらつしやいましたね。

多郎兵衛：そして、道路の復旧で、距離がちよつと近くなつたんですね。こちらに来るお客さんは喜んでおられましたね。非常に近くなつて良かったと聞きました。

積雪は宿命

課 長：従来のルートよりも通りやすく、走りやすくなっているのは間違いないと思います。大分距離が短くなつて、道路も良くなりましたので、そういう意味でも皆さんにうまく使つて頂ければ良い道路になると思つてます。実はあそこがネックになつていて、開通まで、大変お待ちたせしております。

いま、お話ししましたように、今の所だいたい入込み客数が1.5倍ということなんですけれども、社長さんもご承知のとおり、どうしても積雪という宿命があります。先

日も開通から1ヶ月ちよつとしかたつていないんですが、雪が降り通行止めさせて頂きました。冬季は通行止めせざるを得ないので、その辺は如何でしょうか。栗原市、湯沢市の市長さんも強くご要望されていたということもあつて、従来ですと11月10日前後に通行止めにしておりまして、今年は11月24日からという事で宮城県と秋田県では合意しています。しかし、今回のように雪が降ると止めなくちゃいけないものですから。

多郎兵衛：初雪の時はいろいろなことがあるんで大変かと思いますが、春にもうちよつと早めに通せないかと思つています。

課 長：そうですね。我々宮城県も同じ思いでおしまして、通行止め期間をできる限り短期間にできるように、通行止めを開始する時期もそうですが、通行止めを解除する春先の時期についてもなるべく早めにできればと思つています。解除時期は雪の状態にも依りますが、今後も秋田県さんと協議を進めて、なんとか縮めて行きたいと思つております。ご承知の

とおり、宮城県側の方の道路事情が悪いという事がありまして、なかなか積雪との関係を考えると通年通行は困難なものですから、そういった状況をご理解頂いたうえで、なんとか冬季の通行止め期間を短くできればと思つています。

あとは、岩手・秋田・宮城の3県連携等についてお話を伺います。398号という国道は石巻を起点に秋田県側の湯沢市まで通つていますが、398号沿線での地域間交流等は如何でしょうか。

多郎兵衛：今、石巻市の観光協会の会長さんが、石巻と米沢と湯沢を結んで何かできないかということで、トライアングル構想を立ち上げる所です。石巻市さんは毎年10月30、31日に、「海の市」ということで魚を持ってきていただいて大憤湯の駐車場で販売してもらっています。その前に、石巻市では大漁祭がありまして、こちらから行ってイベントに参加させていたたいです。398号開通の時ですが、大憤湯の所でイベントを行いました。開通式をやつて、そのあと花山さんでセレモニーやつ

て帰ってきて、またこちらでイベントやっ
たんですよ。観光協会のほうで芋の子汁を
振る舞うために、家内が用意したんです。
最初はそんなに沢山いららないだろうとい
うことで、芋の子を剥くのが楽な一番大き



398号開通式 秋田・宮城県境にて:左から秋田県副知事、宮城県知事、湯沢市長、栗原市長

地域と地域を結ぶ道

い芋の子を買ってきたんですよ。そしたら、10時くらいから大憤湯の駐車場に行列ができていますよ。これでは今準備している量では足りないのので芋の子をもう少し小さく切って沢山振る舞うようにしないといけないということで、「あぐり館」の容器や箸も借りて準備をしました。だいたい計算してみると1,200杯くらい振る舞いました。午前中一回と午後もう一回やったんですが、最後は何にも無くなりました。

課 長：そういう意味では、宮城県の方も秋田県の方もこの道路の開通をものごく待ち望まれていた証なんですよ

うね。

多郎兵衛：やはり、テレビでも取り上げてくれましたから。仙台の方でも放送されたと聞きましたし。開通したなら行ってみようと、期待して来られた方が多かったですね。ですから、花山の道の駅でのイベントにも私たちの知っている方がいっぱいいらっしゃっていました。

課 長：私達はたまたま道路を担当して、災害を復旧して、通すというのが一つの役割であったわけですけども、今、お話を伺えば、みなさんが如何に開通を待ち望んでいたかというのが良くわかりますね。

多郎兵衛：昨年の10月なんかは工事の最中に特別に道路を通させていただきまして、ありがたかったです。今は全面復旧しましたので、安心しております。

課 長：再度、温泉街の状況をお聞きしますが、今は10月ということですが、ちょうど紅葉の時期となっております。温泉観光のピークかと思われ、通行止めの期間中はかなりお客さ

んが減ってしまったと先ほど伺いましたが、震災前、地震発生が平成20年ですの
で、3年前の平成19年当時と比べまして、
通行止めが解除された現在の宿泊客の状
況は如何ですか？

多郎兵衛：さすがに震災前と同じとまでは
いってません。でも、だいぶ戻ってきて
おります。震災前はお客さんが年々増え
ておりまして、特に個人グループのお客
さんが非常に多くなっておりまして。た
だ、団体客の方は年々減っておりまし
た。震災後は大型観光バスがほとんど来
なくなっていましたが、通行止めの解除後
はこの団体が戻って来ていまして、10月
の予約は順調な状況です。

観光振興の取り組み

課長：温泉街に活気が戻ってきている
ことは何より嬉しいことです。さて、社長
さん、通行止めはようやく解除され、秋
田・宮城の相互通行が可能となったわけ

ですが、改めて道路に望むこと、今後の観光
振興に必要なもの、そういった観点からお
話を伺えますか。

多郎兵衛：道路に対して特にどうこうはあ
りませんよ。十分対応して頂いていると
思っています。ただ、先ほどからお話し
したように、冬期間の通行止めを何とか
短くして頂けたらありがたいなと思
います。春先早めに通行止めが解除され
るとだいぶ違います。

課長：雪の降らない地域の人にとって
は雪もめずらしいですからね。確かに観
光目的の一つになり得ますね。

多郎兵衛：観光振興については、ほかの観
光地と一層連携していくことが大切だと
感じておりまして、人的交流をもつ
と盛んにしたいと思っています。前
にも申しましたが、今までは当たり
前で商売してきた部分がありました。
何もしなくてもお客さんは来る。道
路があれば車が通るとかという思いが
ありました。今回の地震でそうではないとい
うことに改めて気付かされまして、お客様

への気配りや色々なPR活動など、地道
な努力がとても大切だと感じました。そ
ういう事に気付かされたという意味では、
今回の地震が大変良い切っ掛けとなりま
した。

課長：我々行政にとっても、今回の地
震はいろいろな教訓を得る機会となりま
した。地域の皆さまと手を携えながら、
この貴重な経験を今後の行政に役立たせ
ていきたいと強く感じております。

本日は貴重なお話しをお聞かせいた
だき大変ありがとうございました。長時間に
およぶ対談に御協力いただきまして心か
ら感謝申し上げます。

【平成22年10月29日 小安温泉峡多郎兵衛旅館にて】



